

# ごあいさつ

本日は一本ゲタ大使館コレクション「秘蔵展」にお越しいただきありがとうございます  
一本ゲタ大使館の加藤陽子（ゲタ大使）と申します

今年の春、毛利武士郎記念館をきりもりしている柳原幸子さんより「一本ゲタ大使館を紹介したい。紹介になるような展示を」とのご提案をいただきました

一本ゲタ大使館には中身と呼べるような中身はありません。それゆえ別名をアソコとしています。というより元々アソコと名付けていた「場所のようなもの」を、表向きに少々わかりやすくするために2010年に「一本ゲタ大使館」というふうな看板を掲げることとし、なんとなく改名しました。アソコが一本ゲタ大使館から消えたわけではなく、あっちとこっちを行き交う「あいだ」のような、「あわい」のような何かをアソコと想像していただければ、と思います

それで中身がないものですから、「ときおり何かを（発掘しては）やすみやすみ熱心に紹介している一本ゲタ大使館」ということしか無く、しかしながらそれこそが「一本ゲタ大使館とは何か？」の答えであると思いましたので、長年ぼんやりあたためてきた企画でもあるところの、実家加藤家（名古屋市）や一本ゲタ大使館（名古屋市→入善町）に長らく死蔵していた実母、加藤静江「ハハのアソコ」の陶作品「ハハのアソコ」を発表することにいたしました

作品は90年代2000年代に製作されたものがほとんどです。母は看護や介護などの合間にせっせと作っていました。仲間内でのそのつどの発表のようなことはしているようですが、今回のような展示の機会は初めてとなります

こちらの会場に展示している160点ほどのうち、およそ130点は実家＝チチのゴミバコ（ご想像のとおりゴミ屋敷にちかいです）に死蔵／ほぼ埋蔵されていた作品です

ですので企画の当初は、より真実にちかい「死蔵コレクション展」という構想で準備を始めました

「生は死に絶え間なく支えられている」と感じますが、こちらから死に息を吹き込めたのならこんなに嬉しいことはありません

同時に発掘の喜びを分かちあえましたら幸いです

毛利武士郎さん、柳原正樹さん、柳原幸子さんには心より感謝申し上げます

2024年10月

ゲタ大使